

馬の故事・民俗と絵馬の起源

古くは神霊は馬に乗って降臨するとも考えられており、馬は神の乗り物であり神慮を慰める神聖な動物として大切にされてきました。



宇佐山古墳出土の土馬

神事に馬が不可欠なものとなっており、馬の像が作られている神社も少なくありません。

て、土で作った土馬を捧げるようになって、さらには板に馬の絵を描いた絵馬を奉納するようになってきました。古い時代の絵馬としては、奈良時代の出土品に馬を描いた絵馬が発見されています。古社寺には大型の絵馬額が伝え残されている例がたくさんあります。近代には小さい小絵馬に馬の絵に限らず願い事や関連の絵を描いて奉納するのが一般的になり、現在に至っています。

それとともに馬は農耕や交通・運搬・軍事に欠かせない



長等神社境内に移転した現在の馬神社

近江神宮日供神饌講
新版第十七号
平成二十五年十二月十日

動物でもあり、天智天皇の大津宮のころ、牧を設けて放牧を行ったとの記録も残されています。民間でも家族同様に屋根のある厩で暮らし、農業や馬にまつわる祭事や民俗も多くありました。

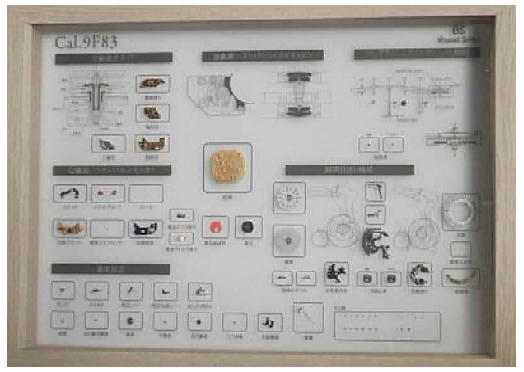
琵琶湖の湖上交通の拠点であり東海道の重要な宿場でもあった大津では多くの馬を所有して盛んに利用されていました。東海道大津宿の中心部、北国街道の起点でもあった札の辻には馬の調達を行う馬会所がありました。その敷地内に馬の守り神として信仰された馬神社があり、旅人や馬持ちの間で疫病除けなどの信仰がありました。「大津東町馬神」と染めた布を馬の腹に当てておくと馬の疫病除けになるということが大津近辺だけでなく全国各地に知られていたとのことです。

南滋賀町廃寺跡関連遺跡から文字出土

天智天皇の都・大津宮の周辺にあった関連寺院の一つとして、南滋賀町廃寺が知られています。同廃寺跡は大津宮中心部の真北五百メートルに位置しており、昭和初期の発掘調査で寺院跡が発見され、南滋賀町廃寺跡と名付けられ、国史跡となっています。現在残されている文献には書かれたものがなく、名称を示すものも発見されていませんでしたが、昨年付近の発掘調査が行われたなかで「錦寺」と書かれた陶器の破片が発見され、南滋賀廃寺の寺名を表わしたものである可能性が高いとして注目されています。現在の錦織付近を中心に浜大津から滋賀里付近までの地名として、「錦部（にしこり）郷」という郷名が文献に残されており、これをとった錦部寺という



掘調査が行われたなかで「錦寺」と書かれた陶器の破片が発見され、南滋賀廃寺の寺名を表わしたものである可能性が高いとして注目されています。現在の錦織付近を中心に浜大津から滋賀里付近までの地名として、「錦部（にしこり）郷」という郷名が文献に残されており、これをとった錦部寺という



グランドセイコー部品標本のうちの一点

名称があつたのではないか、これを略して錦寺と書かれたのではないかと推測されています。また錦部村主という氏族があり、その氏寺であつた可能性もあると考えられるようになりました。

グランドセイコーの部品標本奉納

昨年漏刻祭にあたって、セイコーオツチ株式会社から高級腕時計グランドセイコーの部品標本三点が奉納されました。今年初めから時計館に展示されています。上の画像はそのうちのひとつで、同様のものがほかに二つ展示されています。

従来ロレックス社の類似の標本が展示されていましたが、今回のものは部品の名称も一つ一つ表記してあり、腕時計の内部部品が一点一点わかるようになっていきます。

車椅子用スロープ拡幅

時計館横から外拝殿に上るスロープが従前から設けられていましたが、車イスで安全に上るにはぎりぎり一杯の幅でしたので、本年春約二倍の幅に拡げました。



時計館横から外拝殿へ

坂の部分には両端を仕切りましたので、少々操作を誤ってもすぐに車が出すようなことはなく、外拝殿の参拝位置まで安全に上っていただけのもと思います。

(外拝殿に入る手前の数段の階段を木でふさいだところは従来のままの幅ですので、そこだけは従来どおり注意してお通りください。またご祈禱などで内拝殿にお入りいただく場合は従来どおり一部階段のところがあります)

年末年始の祭典等

- | | |
|-------------|---------------------|
| 十二月十三日午前九時 | 門松立て |
| 十二月二十日午前九時 | 煤払祭 |
| 十二月二十三日午前十時 | 天長節祭 |
| 十二月三十一日午後三時 | 年越大祓式(続いて) 除夜祭 |
| 一月一日午前〇時 | 歳旦祭(さいたんさい) |
| 一月一日午前七時二分 | 初日の出遥拝式 |
| 一月二日午前八時三十分 | 日供始祭(につくははじめさい) |
| 一月三日午前八時三十分 | 元始祭(げんしさい) |
| 一月七日午前九時 | 昭和天皇祭遙拝式 |
| 一月十日午前八時三十分 | 天智天皇祭(天智天皇のご命日) |
| 一月十一日午前十時 | かるた名人位クイーン位決定戦 |
| 一月十二日午前九時 | かるた祭・高松宮記念杯全国歌かるた大会 |
| 一月十五日午前十時 | 古神札焼納祭 |
| 二月三日午前十時 | 節分祭 |
| 二月十一日午前十時 | 紀元節祭 |

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumijingu.org/>「日供神饌講」ページ